

道徳の時間で活用する  
～親切 思いやり～

山口市立大内南小学校 田口 由布子

1 本場面におけるポイント

- 読み物資料として活用し、自己の考えを広げることには生かす。  
資料を読み、登場人物たちの思いに寄り添う活動を通して、いろいろな立場に立つ人の思いを考える機会とする。
- 主人公の変容を取り上げることで、思いやりや親切への考えを深めることに生かす。  
主人公が変容する場面を取り上げ、「いい気持ち」について考える活動を通して、思いやりや親切についての考えを深める。
- 役割演技における体験的活動を通して、今の自分やこれからの自分と結び付けることに生かす。  
自分だったらどう行動するか、実際に動物たちになって演技することで、自分の言動や友だちのよさに気づき、これからの生活への実践意欲をもつことができるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 温かい心で親切に 「資料名 はしの上のおおかみ」

2 ねらい

自分が「いい気持ち」になることと、自分も周りも「いい気持ち」になることとの違いについて考える活動を通して、身近な人たちに温かい気持ちで接し、親切にしようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 通せんぼするおおかみと動物たちの心情を考える。

教師：動物たちに通せんぼするおおかみはどんな気持ちだったかな。

A児：楽しいなって思ったと思うよ。

B児：自分の橋だ、うれしいなって思ったんじゃないかな。

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等  
「わたしたちの道徳」1・2年生用P70～73の文と「文溪堂 1ねんせいのどうとく」のP48～51の絵を活用して、登場人物を黒板に貼り付け、動かしながらお話を進めていくことで、話の内容への興味・関心をもたせ、状況を理解する手助けとする。また、おおかみの気持ちを考えさせるだけではなく、通せんぼされた動物たちの気持ちについても考える活動を取り入れ、おおかみと周りの動物たちとの気持ちの違いにも気付かせる。



(2) 展開 「いい気持ち」の違いについて考える。

教師：なぜ、おおかみは前よりずっといい気持ちだったのでしょうか。

C児：くまさんが、こうするんだよって教えてくれたから。

D児：小さな子には優しくしようと思ったから。

F児：みんなで仲良くできたから。

G児：みんなが楽しい気持ちになったから。

H児：悪いことをしていた自分に気付いたから。

教師：さっきもおおかみは楽しい気持ちになっていたよね。何が違うのかな？

I児：さっきもおおかみは楽しかったけど、他の動物たちは嫌な気持ちだったでしょう。でも、今度は他の動物たちもいい気持ちになったと思うから、そこが違うよ。

J児：おおかみだけじゃなくて、みんなが楽しい気持ちっていうところが違うんじゃないかな。

教師：みんなもおおかみさんや他の動物たちになってみよう（役割演技）。

K児：さあ、どうぞどうぞ、通ってくださいな。

L児：ありがとう。通してくれてうれしかったよ。



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

ワークシートを用いて、まずは自分の思いや考えをまとめる活動を行う。その後、全体で話し合う活動を通して、自分にはなかった考えを知ったり、自分と同じ考えを共有したりすることで、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようにする。

また、役割演技を取り入れ、まずは教師がおおかみになって、他の動物たちを通す活動を見せ、今度は自分ならどうするか考える機会となるように、児童同士で演技し合い、言葉のかけ方や行動について気付いたことを発表させることで実践意欲へとつなげていく。



(3) 終末 親切にしたい気持ちを高める。

教師：これからみんながいい気持ちになれるように、できることはありますか。

M児：困ったことがあったら手伝ってあげるよ。

N児：先に譲ってあげる。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

板書で、おおかみや他の動物たちの気持ちの変化を追い、「いい気持ち」というのは、自分だけが「いい気持ち」になることよりも、みんなが「いい気持ち」になれることの方がより素晴らしいことであると振り返る。今後、「友だちが〇〇などときにはこうしたい。」「こんなことができるようになりたい。」「という意欲へとつなげていけるようにする。また、生活科『えがおひろがれ』の単元を通して、家族へのお手伝いや家族も自分も笑顔になれるように何をすればよいか考える学習をしていたことを想起しながら、身近な人への親切や思いやりを広げていけるようにする。



3 実践を振り返って

同じ場面における以前のおおかみと、くまに出会った後のおおかみを比較することによって、いい気持ちについての考えが深まっていった。

また、役割演技においては、同じ状況でもおおかみの台詞をいうのではなく、自分の言葉で相手と接することによって、親切にすることの清々しさ、相手が喜んでくれることのうれしさを実感する様子が見られた。ぜひ、「こういう場面ではどうする?」といった新たな場面設定なども設け、取り組んでみたい。

